

「読みログ☆3つ!ぼくの好きな○○くんを
しょうかいしよう」(2年生)
「一番友だちになりたい○○さんを
しょうかいします」(3年生)

授業のポイント

①付けたい力を確実に付けるための教師の手立て

教材研究会より

6月に行われた教材研究会において本単元の指導について3つのことが提案された。

〈1〉2年生のスタートと3年生のスタートをずらしている意図は?

→意図的に単元のスタートをずらすことで、教師作成のモデルから単元のゴールを意識させ、児童が課題意識を共有し学習を見通す姿を丁寧に見取ることができるようにするため。

〈2〉学習過程を重視した単元計画

→3年生は単元後半に豆太の性格について考える場面を設定しているが、「自分だったら」を考える時間の前に、複数の叙述を結び付けて豆太の性格を考える精査・解釈の学習過程を踏んだ方が、考えの形成にスムーズにつながるのではないかと。

〈3〉重点指導事項にかかわる教師の手立て

→考えの形成に向かって、それぞれの児童がどのように自分の体験と結び付けていくのが難しいと思われる。教師の手立てが必要ではないかと。

以上、3点をもとに指導案の加筆・修正を行った。(右図参照)

2年生の重点指導事項、「文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもつこと」にかかわって、登場人物の会話文、行動を手がかりに具体的に想像し自分の体験や経験を結び付けて感想をまとめる際、以下のような身近な知識や体験の観点を示すようにした。

- ・もし自分だったら…
- ・友だちにやさしくしてもらった体験
- ・友だちとの思い出(こんなことがあったよ、など)
- ・似たようなお話(ふたりはシリーズも含めて)を読んだこと



キーワードを使って自分たちでまとめる。(3年生)



3年生交流の様子より

③講師による助言・講話より(前鎌倉女子大学准教授 松永立志先生)

複式学級において鍵を握るのは「主体性」である。では、主体性はどこからくるのか。ここでは、相手意識・目的意識を子どもたちに発揮してほしいところでもある。「紹介する相手に、どんな反応を期待するのか」を児童が意識することが大切である。お話を紹介された人(相手)に、「おもしろそう、読んでもらいたいな」と思ってもらうために児童が(どんな方法でいこうかな。)(自分のどんな体験をだそうかな。)と考えていくことが主体性となっていく。

複式学級の「間接指導」を「直接指導」につなげるためには、いかに「間接指導」の時間を効果的な時間にすることができるかを考える必要がある。そのためには間接指導の際に言語活動における活動主体のリーダーの存在も欠かせない。例えば、「次は～をしましょう。」だけではなく「注意点は～に気を付けて考えるのでしたね。」と声をかけたり、「みなさん、終わりましたか。」だけではなく、「途中まで確かめてみましょう。何か困ったことはありませんでしたか。」と尋ね、「ぼくは～で困っています。」という意見が出たら「じゃあ、○○さんの困りごとをみんな考えてみましょう。」というように、活動でリーダー的に動くことができる力を、どの児童にも育成していく必要がある。

発行
令和4年2月
中部教育事務所



授業者
五十嵐彰英教諭(津野町立精華小学校)

本単元で身につけさせたい資質・能力 「読むこと」考えの形成
ウ
◇第2学年 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。
◇第3学年 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想をもっている。

教材

第2学年 「お手紙」(東京書籍2年下)
第3学年 「モチモチの木」(東京書籍3年下)

指導と評価の計画より(一部抜粋)

2年「お手紙」		3年「モチモチの木」					
【評価規準】 【評価方法】	見方・考え方を働かせる子どもの姿	○学習活動	時次	時次	○学習活動	見方・考え方を働かせる子どもの姿	【評価規準】 【評価方法】
		○「モチモチの木」の場面分けをする。 ○場面ごとの大まかな出来事を整理し、物語の大体を捉える。	1	1	○単元のゴールを知る。 ○学習計画を立てる。 ○初回の感想を書く。	・キラリと光るところを見つけるんだね。 ・友達にしたい人物のキラリと光るところを選ぶときにどんな性格の人物が考えていく必要があるんだね。 ・斎藤隆介さんの他の作品にはどんな人物が登場するんだらう。 ・豆太は夜がこわいのに医者様を呼びにいったのがすごいな。	
	好きな場面を選んで、自分だったらどうするかを考えていくんだね。 かえるくんはがまくんのために手紙を書いてあげてやさしいなと思ったよ。 他にどんなお話があるのか早く読んでみたいな。	○「お手紙」の場面分けをする。 ○場面ごとの大まかな出来事を整理する。	2	2	○「モチモチの木」を読んで、キラリと光る(心に残った)場面を選び、その理由を伝える。 ○児童が選んだキラリと光る場面を自分だったら、どうしていたかを考える。 ○斎藤隆介の作品を読む。(並行読書)	・豆太は1、2場面でもモチモチの木がおぼけに見えたりして、すぐおこぶような所もあるけど、いざとなると一人でじまを助けに行こうとしたところからすごい男の子だと思える。 ぼくは、あまさんぼうだつ豆太はとても勇気のある男の子だと思える。だって、5場面でじまが苦しんでいる時には医者様を呼びに行けたから。 じまが元気になると、またしよべんについて来てるから豆太はあまさんぼうだつと思える。	【知②】日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与している。(行動観察)
【知①】文における主語と述語との関係に気づいているか。(発音・ノート)	・挿絵をヒントに考えると、時・場所・人物が変わるところを見つけやすいね。 ・お手紙の物語は全部で5つの場面に分けることができたよ。	○「お手紙」の自分の好きな場面を選び、その理由を交流する。	3	3	○「モチモチの木」を読んで、キラリと光る(心に残った)場面を選び、その理由を伝える。 ○児童が選んだキラリと光る場面を自分だったら、どうしていたかを考える。 ○斎藤隆介の作品を読む。(並行読書)	・ぼくは、4場面がキラリと光る場面だよ。理由は、勇気のある子どもだけができるモチモチの木に灯がついているところを豆太も見ることができたからだよ。 ぼくは、2場面のかえるくんが好きです。「大きい家で家に帰りました。」と書いてあるから、がまくんのために早く手紙を書いてあげようとしている所がやさしいなと思ったからです。ぼくだったら、どうしたらいいのかわからなくなって、手紙を書かずに一緒に待っていたと思います。	【思①】登場人物の気持ちや変化や性格、情景について、場面の移り変わりや結び付けて具体的に想像している。(発音・ノート)
【思①】場面の様子に着目	・ぼくは、2場面のかえるくんが好きです。「大きい家で家に帰りました。」と書いてあるから、がまくんのために早く手紙を書いてあげようとしている所がやさしいなと思ったからです。ぼくだったら、どうしたらいいのかわからなくなって、手紙を書かずに一緒に待っていたと思います。	○「モチモチの木」の自分の好きな場面を選び、その理由を交流する。	4	4	○「モチモチの木」を読んで、キラリと光る(心に残った)場面を選び、その理由を伝える。 ○児童が選んだキラリと光る場面を自分だったら、どうしていたかを考える。 ○斎藤隆介の作品を読む。(並行読書)	・わたしは、3場面のがまくんが好きです。「ぼくにお手紙をくれる人なんて、いいとは思えないよ。」と早く手紙が来てほしいけど、あきらめてすねているがまくんの気持ちが分かるからです。ぼくも前に、本当はほしけれど、すねってしまったことがあったので、この時のがまくんもぼくと同じ気持ちだったのかなと思いました。	【思②】文章を読んで理解したことに基づいて、感想を持っている。(行動観察)
【思②】文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想を持っている。(発音・ノート)	・わたしは、3場面のがまくんが好きです。「ぼくにお手紙をくれる人なんて、いいとは思えないよ。」と早く手紙が来てほしいけど、あきらめてすねているがまくんの気持ちが分かるからです。ぼくも前に、本当はほしけれど、すねってしまったことがあったので、この時のがまくんもぼくと同じ気持ちだったのかなと思いました。	○アーノルド・ローベルの本を読む。(並行読書)	5	5	○「モチモチの木」を読んで、キラリと光る(心に残った)場面を選び、その理由を伝える。 ○児童が選んだキラリと光る場面を自分だったら、どうしていたかを考える。 ○斎藤隆介の作品を読む。(並行読書)	・ぼくは、4場面の医者様を呼びに行っている豆太に「痛いと思うけど、がんばれ」と声をかけたいです。なぜなら、3場面まで、じまがいなくて夜がこわかった豆太なのに血が出て医者様を呼びに行っているからです。 わたしは、4場面のモチモチの木が光っているのを見た豆太に「豆太は勇気のある子どもに変わったんだよ」と言いたいです。なぜなら5場面では、医者様は「明かりがとまったように見える」と言っていたけど、3場面ではじまが「それも勇気のある子どもだった。」とモチモチの木に灯がもったところを見る子どものことを言っていたので、豆太が勇気をだしてじまを助けることができたから、モチモチの木は本当に光ったんだよと思えるからです。	

単元の導入をずらす

精査・解釈

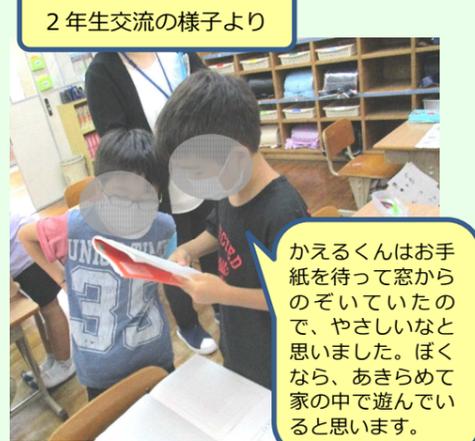
考えの形成

考えの形成



1セット目を終えて
授業者 五十嵐教諭の振り返り

★4月から授業づくり講座に取り組む中で、子どもたちに目的を持たせる重要性を学んできた。毎時間単元ゴールに触れ、「～のために」とゴールをはっきりさせることで、やるべきことが子どもにも自分にも見えてきた。
★話型がなくても、自分の思いを語れるようにしていきたい。そのためには、日々の授業から「叙述をもとに考えさせる」ということに今後も取り組んでいく。



2年生交流の様子より

かえるくんはお手紙を待って窓からのぞいていたので、やさしいなと思いました。ぼくなら、あきらめて家の中で遊んでいると思います。

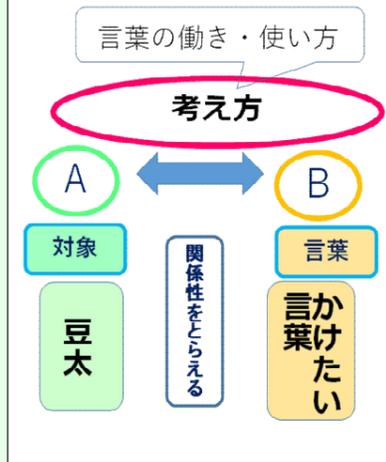
②本時で働く見方・考え方とは(授業研究会3年生より)

本時は、自分の好きな場面の豆太にどんな声をかけたいのかを考え、文章を読んで理解したことに基づいて自分の感想をまとめ表現した。

本時で働かせたい見方・考え方とは、「かけたい言葉」という視点で豆太という対象を捉えるという考え方である。見方・考え方を働かせている児童の姿とは、友だちになりたいと思った中心人物にどんな言葉をかけたいのか、それはなぜかといった関係性を捉えながら、これまで読んできた「モチモチの木」の場面と場面を結び付けて読んだことをもとに、自分の考えを形成していく姿である。授業研究会では以下のような児童の発話があった。

A児：豆太に「がんばれ」と伝えたいです。なぜなら、3場面では調子にのっていた豆太だったのに、じまが倒れて夜の道が怖かったのに走ったところがすごいと思ったからです。

B児：ぼくもかけたい言葉は「がんばれ」です。でも理由が違って、1場面では一人でせっちんも行けなかった豆太が、なきなき走ったなんてえらいと思ったからです。



中心人物の境遇や状況を把握し、複数の叙述を結び付けながら、考えの形成に向かう姿が見られた。

☆講座に参加した先生の声

・国語科についてじっくりと研究する機会が初めてだったので、とても勉強になりました。つけたい力を意識して単元ゴールを示し、1時間1時間それを達成することができたか、自問自答しながら授業をつくりあげていくのは大変だけれど、とても魅力的に感じました。
・国語の単元構成の仕方や言語活動のポイントなど、本講座で学んだことを同じ職場の先生方にも伝達して学校全体で授業力を向上させていきたいと思っています。